

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「本は友達」 教材名「作家で広げるわたしたちの読書 / モモ」

2 単元の目標

日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(3)オ）

文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（C(1)力）

作家を手掛かりに本を選び、読書で得た考えを紹介し合う学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ）	①「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)力）	①作家を手掛かりに本を選び、読書で得た考えを紹介し合う学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

作家を手掛かりに本を選び、読書で得た考えを紹介し合う。この教材では、作家と作品の読書記録、内容を根拠にした紹介を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

作家の情報は本の奥付や図書館資料で確かめ、作品のよさは本文から説明する。未確認の作者情報を補わない。想定する難しさは、作家の人物紹介だけで作品を読んだ感想がない。評価では、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかを、作家と作品の読書記録、内容を根拠にした紹介と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全5時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○教材を読んで紹介の観点をもち、同じ作家の別の本など関心に合う本を選ぶ。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	3～4 （本時）	○教材を読んで紹介の観点をもち、同じ作家の別の本など関心に合う本を選ぶ。内容や表現の根拠からよさを紹介し、友達の見方を受けて読書の次の計画を考える。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	5	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (3/5)

(1) 本時の目標

文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。(C(1)力)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「同じ作家の本を読むと、どんな共通点や違いに気付きますか」 【めあて】作家を手掛かりに本を選び、読書で得た考えを紹介し合う。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ作家でも語り方の違う作品がある。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「同じ作家の本を読むと、どんな共通点や違いに気付きますか」 教材を読んで紹介の観点をもち、同じ作家の別の本など関心に合う本を選ぶ。内容や表現の根拠からよさを紹介し、友達の見方を受けて読書の次の計画を考える。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ作家でも語り方の違う作品がある。 ・友達の紹介から別の本にも関心をもった。	作家の情報は本の奥付や図書館資料で確かめ、作品のよさは本文から説明する。 未確認の作者情報を補わない。 想定する難しさ：作家の人物紹介だけで作品を読んだ感想がない。 評価では、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかを、作家と作品の読書記録、内容を根拠にした紹介と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 (発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 作家と作品の読書記録、内容を根拠にした紹介を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の紹介から別の本にも関心をもった。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「同じ作家の本を読むと、どんな共通点や違いに気付きますか」。中央は、作家と作品の読書記録、内容を根拠にした紹介に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

